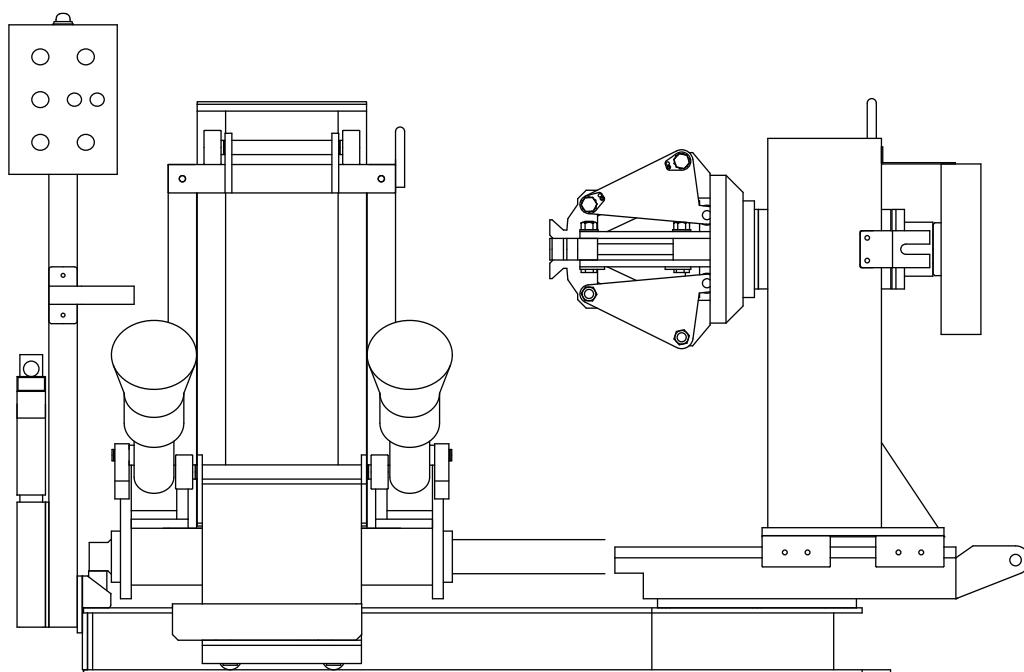


取 扱 説 明 書

TB・TL TIRE CHANGER

プロフィット

PF-295W型



※取扱説明書が現品と異なる場合は、販売会社まで請求してください。



警 告

製品を使用する前に必ず取扱説明書をよく読み、充分理解してから使用してください。
この取扱説明書はいつでも使用出来るよう大切に保管してください。



小野谷機工株式会社

目 次

1. まえがき	1
2. 使用目的	1
3. 危険・警告・注意事項	2
(1) 一般的な注意事項.....	2
(2) 警告ラベル貼付位置・内容.....	3
4. 各部の名称と機能	4
(1) 各部の名称と機能.....	4
(2) 電気回路図.....	5
(3) 油圧回路図.....	5
5. 取り扱い方法	6
(1) 始業点検.....	6
(2) 操作スイッチと各部の動作.....	6
(3) ホイールのドロップ位置.....	8
6. 操作手順	9
(1) タイヤ着脱時の警告・注意事項.....	9
(2) ディマウント.....	10
(3) マウント.....	12
(4) ホイールのためのチャッキング.....	14
(5) 16インチタイヤのディマウント.....	15
7. メンテナンス	16
8. 作動不良時の処置	18
9. 仕様	20
(1) 本体仕様.....	20
(2) 本体寸法.....	20
10. 製品保証規定	21
(1) 保証規定.....	21
(2) 保証請求方法.....	21
(3) アフターサービスについて.....	22
(4) 設置（据付）及び移設について.....	22

1. まえがき

この度は弊社のTB・LTタイヤチェンジャー「プロフット PF-295W」をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本機をご使用になる前に必ずこの取扱説明書を注意深く読み、よく理解してからご使用下さい。取扱説明書に記載されている注意事項および使用方法をよくご理解頂かないと本機の適正な能力を発揮できないばかりか、人身事故やタイヤ・ホイールの損傷につながりますので、充分ご理解のうえ、正しくご使用ください。

また、この取扱説明書はいつでもご使用になれますように大切に保管して下さい。

尚、取扱説明書・注意ステッカー等は大切に保管・貼付して頂き万一、紛失・汚損された場合には速やかにご購入のうえ、正しく保管・貼付してください。

2. 使用目的

このタイヤチェンジャーはTBおよびLTタイヤの交換を行うことができるタイヤチェンジャーです。

3. 危険・警告・注意事項



警 告

この取扱説明書では「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は、安全作業のために重要な事柄です。

人身事故や財物損害防止のために重要な事項が記載されていますので、必ずよく理解してからご使用ください。



危 険……取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



警 告……取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う恐れが想定される場合。



注 意……取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合。及び物的損害のみの発生が想定される場合。

(1) 一般的な注意事項

- ①取扱説明書をよく読み、よく理解してから使用してください。
- ②このチェンジャーの操作は、使用方法を熟知した人以外は使用しないでください。
- ③始業点検及び定期点検は、取扱説明書の本文の指示に従って、必ず実施してください。
- ④運転時に異音発生等、普段と異なる状態の時は、チェンジャーの使用を禁止し、お買い上げの販売会社に連絡して、点検を受けてください。
- ⑤本機は防水仕様になっていませんので、屋外設置や水による洗浄は避けてください。
- ⑥このチェンジャーをタイヤ交換以外の目的で使用しないでください。

(2) 警告ラベルの内容



注 意

警告ラベルは大切に保管して下さい。剥がれたり汚損した場合は速やかに購入のうえ、正しく貼付して下さい。

 警 告	
 チャックを緩めるときは、必ずリフトまたはベースで受けること。 タイヤは手で押さえて倒れないように支えること	 作動中のチャック部には手を触れないこと。 挟まれて大ケガをする恐れがあります。
 リフトまたはアーム下降時には下に足を入れないこと。 足などを挟まれて大ケガをする恐れがあります	 ビードクリーム塗布、回り止めの脱着時には必ずタイヤ回転を止めること。 巻き込まれて大ケガをする恐れがあります。
 機械にチャッキングしたまま、タイヤへのエア充填(注入)は絶対に行わないこと。 エア注入は安全ゲージの中で行ってください	 取扱説明書をよく読み、理解した上で使用すること 誤操作により思わぬ事故の可能性あります。
 操作方法を熟知した人以外は使用禁止。 誤操作により、思わぬ事故の可能性あります。	ここに示す警告事項は、機械の取扱方法を誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される事柄です。 警告ラベルは大切に使用ください。 はがれや汚損された場合、お買い上げの販売会社から購入の上、正しく貼付してください。

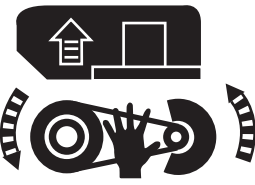

注 意

機械に水をかけないこと



※サビの発生や電気部品の損傷の恐れがあります。


注 意



手を入れないこと

モーターカバーの「矢印」とモーターの回転方向を合わせて下さい。


警 告



J×002

高圧電流が流れています。
感電の恐れがありますので、ふれないで下さい。


警 告



J×003

回転中のファンに手や指を入れないで下さい。

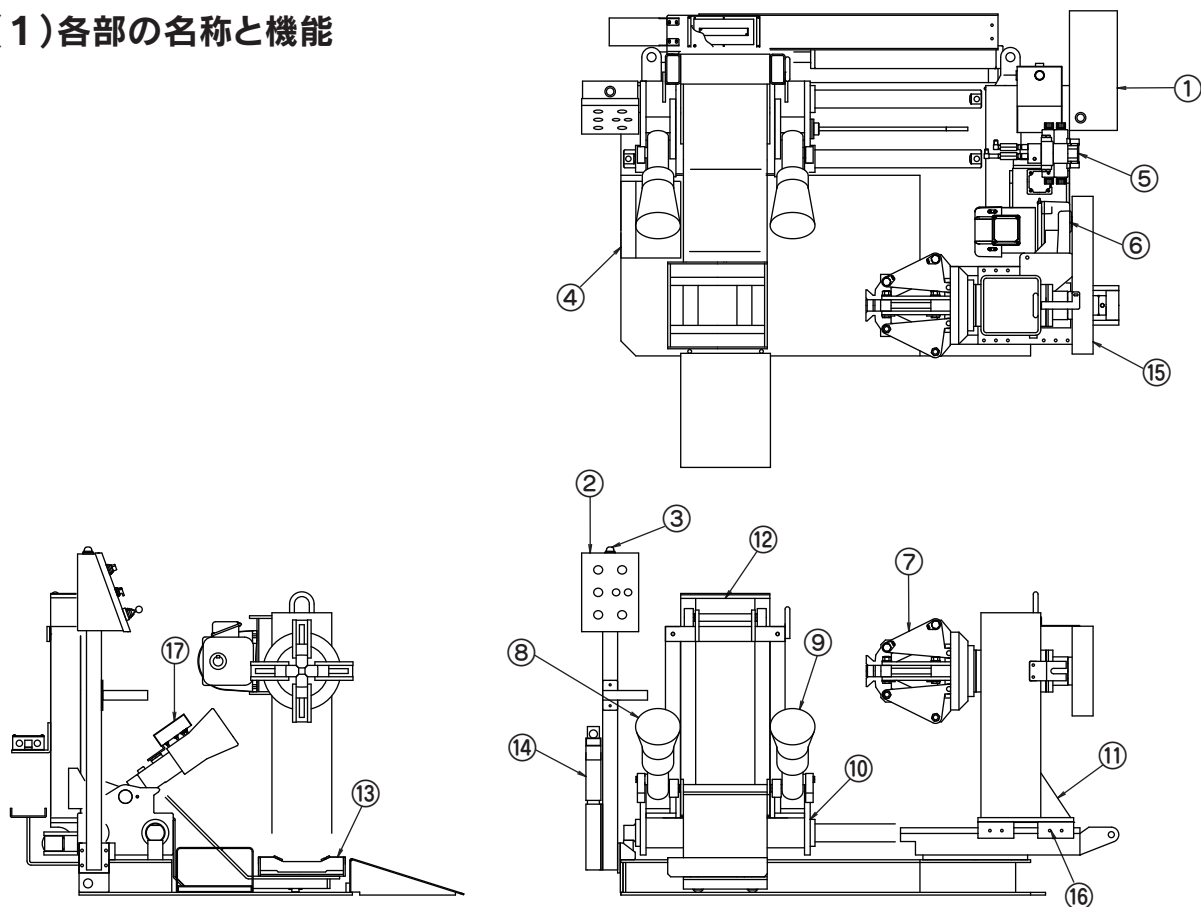

警 告



指ツメ危険・リムと固定爪の間に手を入れないこと。

4. 各部の名称と機能

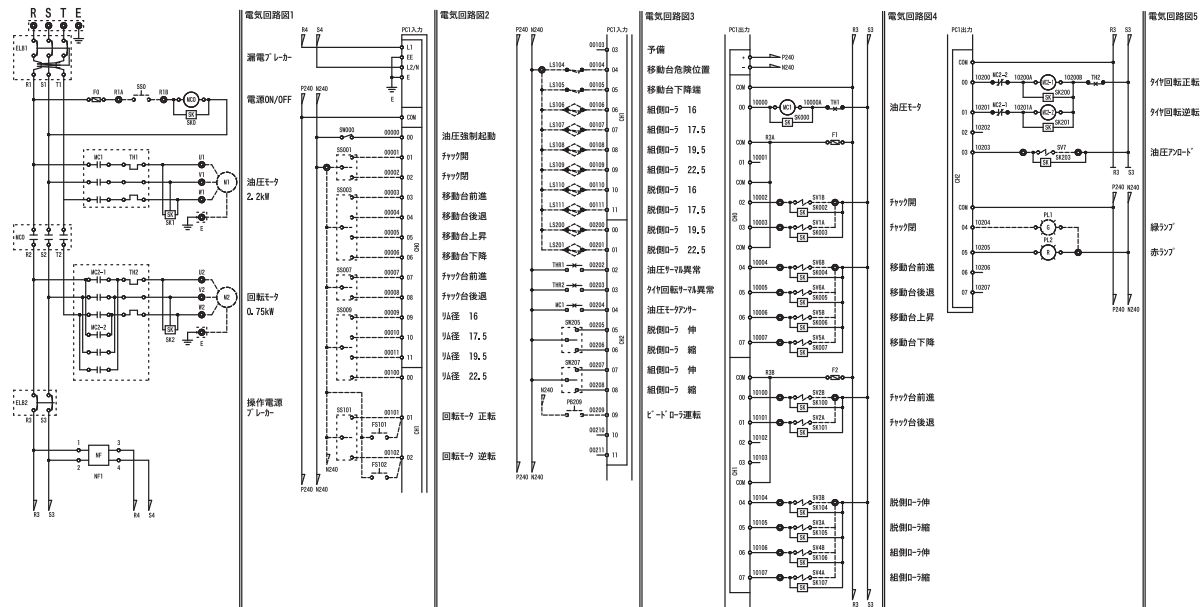
(1) 各部の名称と機能



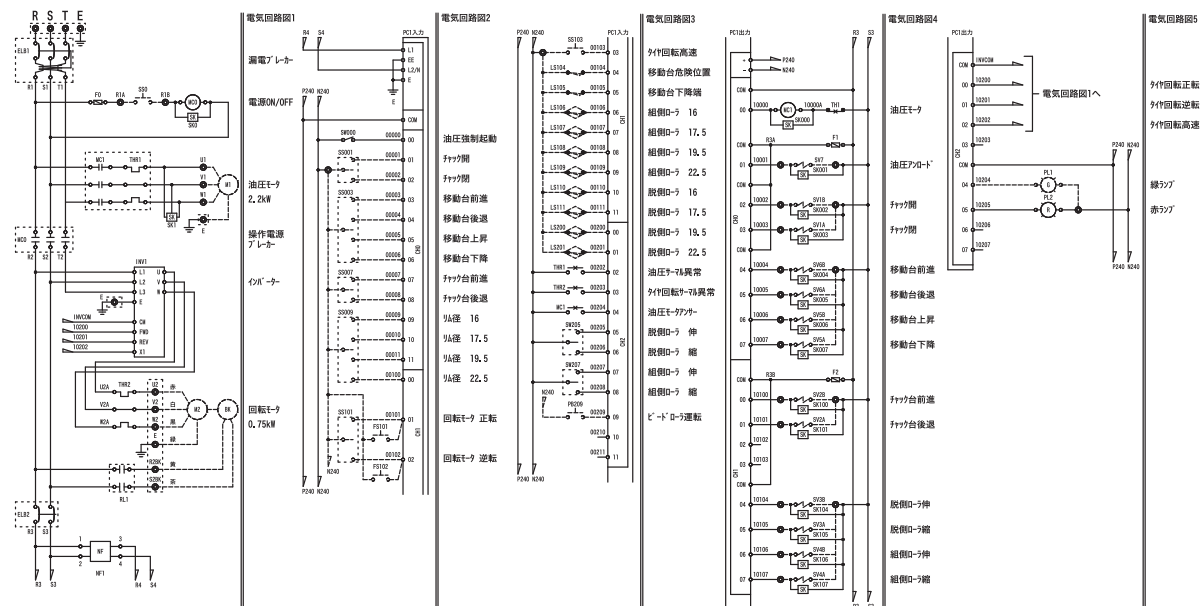
No.	名 称	機 能
①	制御ボックス	本体の電源制御部
②	操作ボックス	本機の操作を行います
③	操作スタンバイ表示ランプ	電源投入時、緑に点灯します
④	タイヤ回転フットスイッチ	タイヤ回転の正転・逆転を行います
⑤	油圧ユニット	油圧発生装置
⑥	タイヤ回転モーター	タイヤ回転装置
⑦	チャック	ホイール固定部
⑧	組側ビードローラー	
⑨	脱側ビードローラー	
⑩	移動台	ビードローラーの移動台
⑪	チャック台	チャックの移動台
⑫	タイヤリフト	タイヤ・ホイールの上昇・下降
⑬	タイヤ台	タイヤ・ホイール投入部
⑭	楽なバー	タイヤ組付時のアタッチメント
⑮	タイヤ回転チェーン	タイヤ回転駆動部
⑯	スライドメタル押しボルト	チャック台スライド保持部
⑰	ビードローラーセンサー	ビードローラー位置決め部

(2) 電気回路図

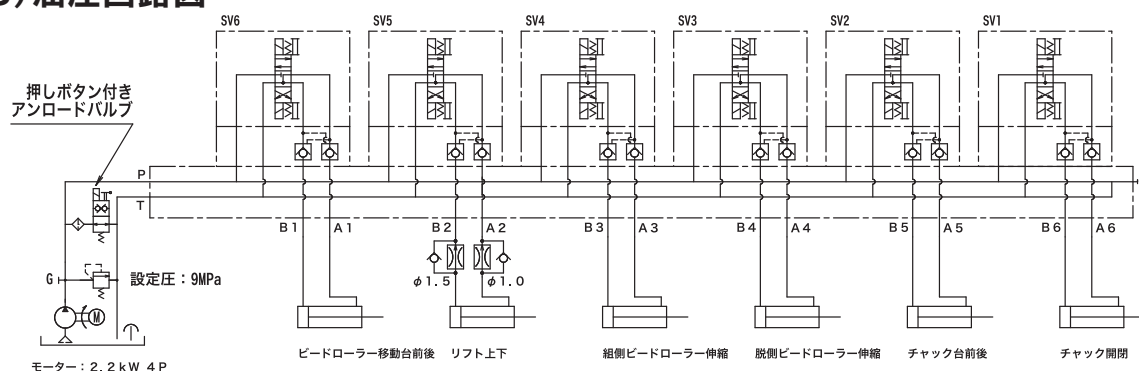
●標準仕様



●タイヤ回転2スピード仕様



(3) 油圧回路図



5. 取り扱い方法

(1) 始業点検

毎日、作業前に必ず始業点検を行ってください。

- ①チェンジャー本体に外観上の異常(変形、破損、摩耗等)はないか。
- ②各ボルト、ナット類の緩みはないか。
- ③油圧ユニット、油圧ホース接続部、各シリンダに油漏れがないか。
- ④モーター(油圧ユニット、チャック部)が正常に作動するか。
- ⑤各操作(動作)部がスムーズに作動するか。

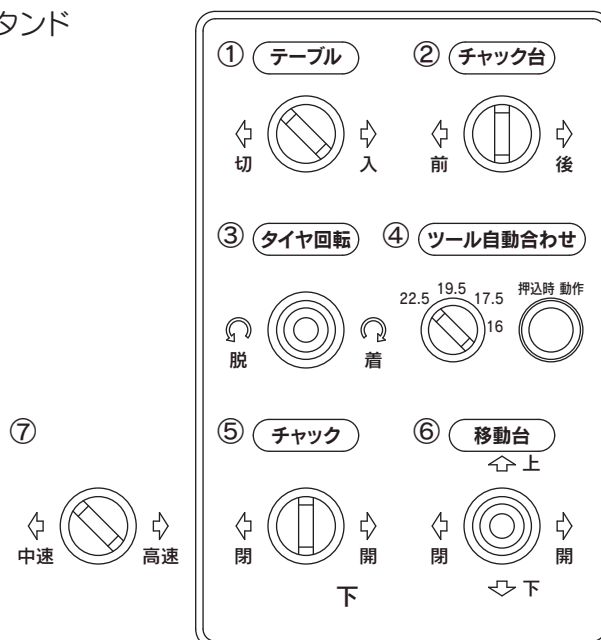


警告

異常と思われる箇所が発見された場合、異常箇所の修復を完全に行うまではチェンジャーの使用を禁止して、ただちにお買上げの販売会社に連絡してください。そのままお使いになるとチェンジャーの破損および重大事故につながる危険性があります。

(2) 操作スイッチと各部の動作

●操作スタンド



①電源

電源のON/OFFを行います。

本機は電源をONしただけでは油圧ユニットは作動しません。油圧シリンダの動作信号が入力されたときに連動して油圧ユニットが作動します。

動作信号がなくなると油圧ユニットは停止し、スタンバイ状態になります。

②チャック台

チャック台を前進させる時は「前」側に、後退させる時は「後」側にスイッチを操作します。

通常タイプホイール作業時は前進端に、リバースタイプホイール作業時は後退端に移動させます。



注 意

チャック台を移動させるときは、必ず前進端、もしくは後退端まで移動を行って下さい。正常なストロークを得られなくなり、タイヤ交換が行えなくなる場合があります。

③タイヤ回転

チャッキングを行ったタイヤ・ホイールを回転させるスイッチです。

左回転させるときは「脱」側に、右回転させる時は「着」側にスイッチを操作します。

③ツール自動合わせ

ビードローラーの伸縮を自動で行います。

作業を行うホイールのインチサイズにスイッチを合わせて、押しボタンを押込み続けると自動でビードローラーをセッティングします。セッティング完了状態から再度、押しボタンを押し込むと同サイズに再セッティングします。



注 意

ツール自動合わせ途中に押しボタン押込みを解除してしまうと正常なビードローラー位置にセッティングできません。
必ず、自動合わせ運転が終わるまで押しボタンを押込み続けてください。

③チャック

チャック開閉用のスイッチです。



警 告

- チャッキングの動作時はチャック周辺に手や指を入れないでください。
手や指を挟み込み、重大な事故につながるおそれがあります。
- ホイールをチャッキングしたまま不用意にチャックを緩めないでください。
ホイールが落下し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ホイールをチャッキングしたままで長時間放置しないでください。
チャッキングが緩み思わぬ事故につながるおそれがあります。

⑥移動台

ビードローラーの移動台を前進させる時は「前」側に、後退させる時は「後」側にスイッチを操作します。

タイヤリフトを上昇させる時は「上」側に、下降させる時は「下」側にスイッチを操作します。



注 意

タイヤリフトの下降時にタイヤリフトの下に足を入れないでください。
足を挟み込み、重大な事故につながるおそれがあります。

⑦回転速度 ※タイヤ回転2スピード仕様のみタイヤ回転速度の選択が行えます。

●フットスイッチ

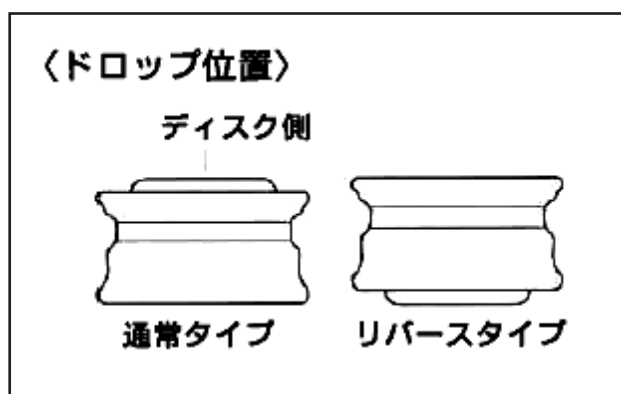
チャッキングを行ったタイヤ・ホイールを
回転させるスイッチです。



(3)ホイールのドロップ位置

TB・LTホイールには乗用車用ホイールと同様に、ドロップ部(ウェル)があります。

タイヤホイールのチャッキングおよびタイヤ交換の場合は必ずホイールドロップ位置を確認し、ドロップに近い方からビードの脱着を行ってください。



6. 操作手順

(1) タイヤ脱着作業時の警告、注意事項



警告

- チャッキングの動作時はチャック周辺に手や指を入れないでください。
手や指を挟み込み、重大な事故につながるおそれがあります。
- タイヤリフトの下降時にタイヤリフトの下に足を入れないでください。
足を挟み込み、重大な事故につながるおそれがあります。
- ホイールをチャッキングしたまま不用意にチャックを緩めないでください。
ホイールが落下し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ホイールをチャッキングしたままで長時間放置しないでください。
チャッキングが緩み思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ内のエアは必ず完全に抜いてからディマウント作業を始めてください。
- タイヤクリームの塗布時、ホイール回り止めの脱着時等は必ずタイヤの回転を止めて行ってください。回転したまま行くと機械に巻き込まれ重大な事故につながるおそれがあります。
- タイヤを機械にチャッキングした状態でのエア充填は絶対にしないでください。
必ず安全ケージの中でエア充填してください。



注意

- ツール自動合わせ途中に押しボタン押込みを解除してしまうと正常なビードローラー位置にセッティングできません。
必ず、自動合わせ運転が終わるまで押しボタンを押込み続けてください。
- チャック台を移動させるときは、必ず前進端、もしくは後退端まで移動を行ってください。正常なストロークを得られなくなり、タイヤ交換が行えなくなる場合があります。
- タイヤ交換時に配線の断線等による单相運転にご注意ください。
その他、異常箇所が発見された場合は、チェンジャーの使用を中止して、直ちに
お買い上げの販売会社に連絡してください。
そのままお使いになるとチェンジャーの破損につながるおそれがあります。
- アルミホイールをチャッキングするときはアルミ保護リングを使用してください。
保護リングを使用しないと、ディスク部が傷つくばかりか、タイヤ取外し時に
ホイールがチャックから外れるおそれがあります。

(2)ディマウント(タイヤとホイールの分離)

- ①作業を行うホイールに応じて「ツール自動合わせ」を行い、ビードローラーをセッティングします。



警告

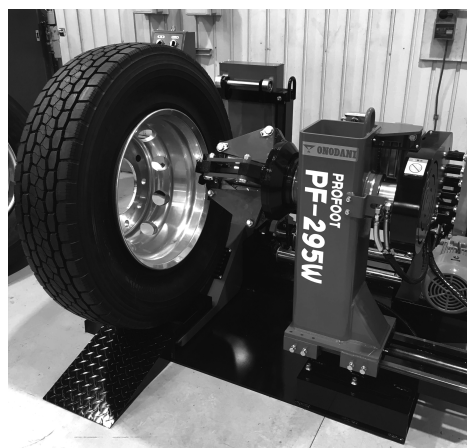
ツール自動合わせ途中に押しボタン押込みを解除してしまうと正常なビードローラー位置にセッティングできません。

必ず、自動合わせ運転が終わるまで押しボタンを押込み続けてください。



- ②エアを抜いたタイヤを抜き方向に注意してタイヤ台に投入します。

通常タイプホイール作業時はチャック台を前進端に、リバースタイプホイール作業時は後退端に移動させます。



警告

チャック台を移動させるときは、必ず前進端もしくは後退端まで移動を行ってください。正常なストロークを得られなくなり、タイヤ交換が行えなくなる場合があります。



- ③ホイールのフランジ部とビードローラー先端が近くなる位置までタイヤリフトを上昇させます。

その位置まで上昇すれば、ホイール中心とチャック中心が近くなり、チャッキングが容易に行えます。

チャッキングが完了したら、タイヤリフトを下降端まで下降させます。



- ④表側ビードをブレードしてタイヤクリームを充分塗布します。



- ⑤タイヤを左回転させながら移動台を前進させて表側ビードを押し出します。この際、ビードローラーと反対側のビードがホイールドロップ部に落ち込んでいる事を確認してください。



注意

ツールに対向する側のビードがホイールのドロップに落ち込まない状態で無理にビードを押し出そうとするとホイールのディスク部やビードを変形・損傷させるおそれがあります。



- ⑥表側ビードが外れたら、ビードローラーがホイールフランジと裏側ビードの間から見えるまで移動台を前進させます。タイヤを左回転させて裏側ビードが6分目ぐらいまで外れたところでタイヤリフトを上昇し、タイヤを取外します。タイヤリフトを下降端まで下降させてからタイヤを排出してください。



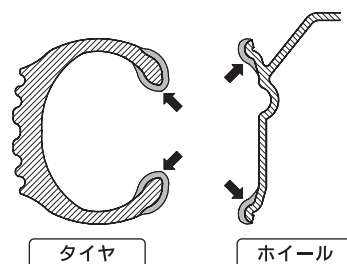
(3)マウント(タイヤとホイールの組付け)

- ①ホイールをチャッキングしてタイヤクリームを塗布します。ビード部にタイヤクリームを塗布したタイヤを投入し、タイヤリフトで持ち上げてホイール上部へ斜めにかけます。



注 意

タイヤマウント時には必ず、図のようにタイヤクリームをビード部およびホイールに塗布してください。
塗らずにマウントするとタイヤビード部を損傷するおそれがあります。



- ②タイヤを手で支えながらタイヤリフトを下降端まで下降させて、移動台を後退し、ビードローラーでタイヤを押えます。
ローラーとホイールの間隔がビード1枚分になるまで移動台を後退させ、タイヤを右回転させて表側ビードを組み込みます。



- ③さらに移動台を後退させてタイヤを押込み、写真のように楽なバーがセットできるようにタイヤを回転させます。
楽なバーを奥まで差込んでセットします。
楽なバーの取扱いは別紙の説明書を参照してください。



警 告

楽なバーの脱着は必ずタイヤの回転を止めてから行って下さい。回転させながら行くと機械に巻き込まれ事故のおそれがあります。

- ④楽なバーが写真の位置あたりになるまで右回転を行います。ビードローラー対向側のビードがドロップに落ち込んでいることを確認できたらビードローラーの押込みを写真のように緩めます。

さらに右回転を行い表側ビードを組込み、楽なバーを取外します。



注 意

ビードローラーの押込みを緩めずに表側ビードの組込みを行うと、楽なバーが破損するおそれがあります。

- ⑤軽点合わせを行う場合はタイヤリフトを上昇し、タイヤに軽く押し当てた状態でチャックを回転させホイールを空転させることでバルブと軽点マークを合わせます。



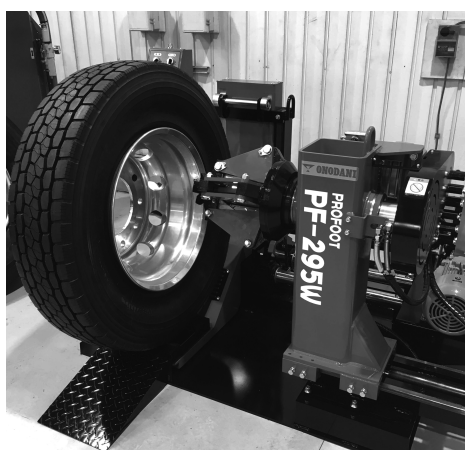
- ⑥タイヤリフトでタイヤを保持し、タイヤを手で支えながらチャックを閉じます。

移動台を後退させて、タイヤリフトを下降端まで下降し、タイヤを排出します。



注 意

チャックを緩める時は必ずタイヤリフトをタイヤに接触させ、タイヤは手で支えて倒れないようにして下さい。タイヤホイールが転倒し事故のおそれがあります。



(4)ホイールのみのチャッキング

- ①作業を行うホイールに応じて「ツール自動合わせ」を行い、ビードローラーをセッティングします。



注意

ツール自動合わせ途中で押しボタン押込みを解除してしまうと正常なビードローラー位置にセッティングできません。

必ず、自動合わせ運転が終わるまで押しボタンを押込み続けてください。



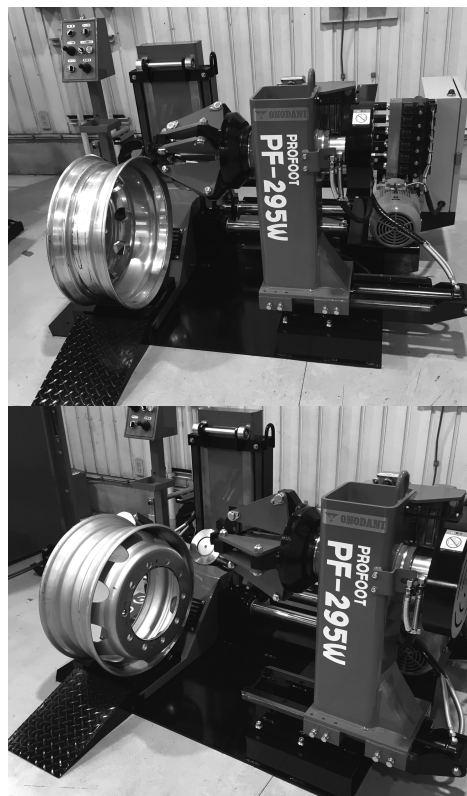
- ②抜き方向に注意してホイールをタイヤ台に投入します。通常タイプホイール作業時はチャック台を前進端に、リバースタイプホイール作業時は後退端に移動させます。



注意

チャック台を移動させるときは、必ず前進端もしくは後退端まで移動を行ってください。

正常なストロークを得られなくなり、タイヤ交換が行えなくなる場合があります。



- ③タイヤリフトを上昇させ、ホイール中心とチャック中心を合わせてから、移動台を後退させます。チャックを開いてホイールを固定したら、タイヤリフトを下降端まで下降してください。



(5) 16インチタイヤのディマウント

①タイヤホイールをチャッキングし、表側ビードと裏側ビードをブレードしてから表側ビード、ホイールフランジ部にタイヤクリームを充分塗布します。
写真の位置にエアバルブを合わせてからタイヤをビードローラーで押し込んで、隙間にタイヤレバーを差込みます。



②ビードローラーをタイヤから離して、タイヤレバーで表側ビードをめくります。



③表側ビードをめくっている状態で移動台を前進させタイヤを裏側から押し出します。
表側ビードが外れにくい場合はタイヤを右・左交互に回転させながらタイヤを押し出してください。



④裏側ビードが全てドロップに落ち込んでいる状態で裏側ビードをビードローラーで押し出して取外してください。



7. メンテナンス



警告

点検の際、電気部品に触れる必要がある場合は、必ず電源を切ってください。
またメイン電源を入れたまま電気部品に触れる必要がある時には、端子等に触れないよう充分注意してください。

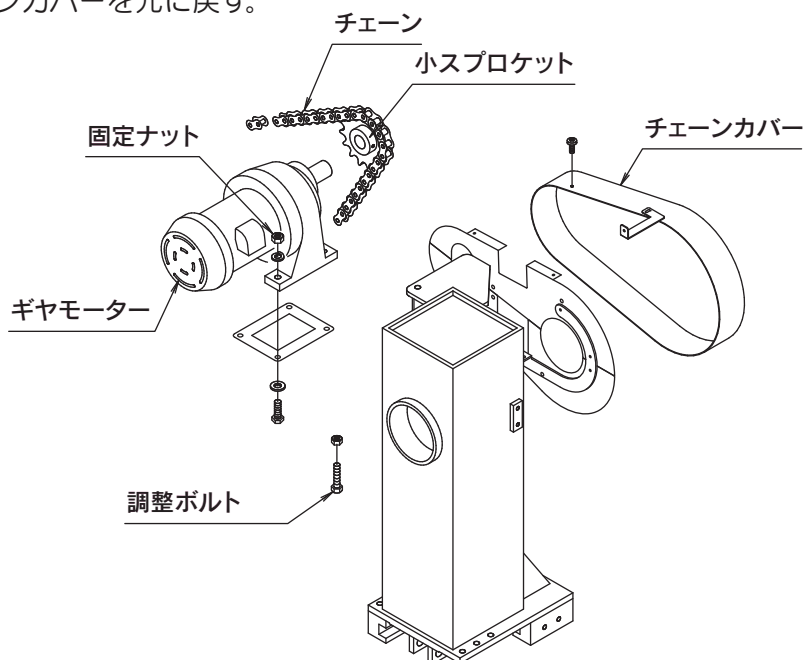


注意

- カバー等はずして点検を実施した場合は、必ず元通りに全ての取り付けねじ等を使用して元に戻してください。
- 点検の結果、異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまでチェンジャーの使用を禁止して、ただちにお買上げの販売会社に連絡してください。そのままお使いになるとチェンジャーの破損および重大な事故につながる危険性があります。

1. 本機はモーター出力をチェーンで伝達してタイヤ回転を行っています。チェーンが緩んできましたら、下記の方法でチェーンを張ってください。

- ① チェーンカバーを取り外す。
- ② 固定ナットを緩める。(4箇所)
- ③ 調整ボルトを締め込んでチェーンを張る。
- ④ 小スプロケットと大スプロケットが水平になるように調整する。
- ⑤ 固定ナットを締め込みモーターを固定する。
- ⑥ チェーンカバーを元に戻す。



2. 油圧ユニット内オイルを交換、または給油する場合は当社純正のハイドロリックオイル(VG 32)、または市販のタービン油(ISO VG32～56)を使用してください。



注意

オイルの交換は1回／年、必ず実施してください。
オイル交換・注入時は各シリンダーを一番縮んだ状態にして行ってください。



注意

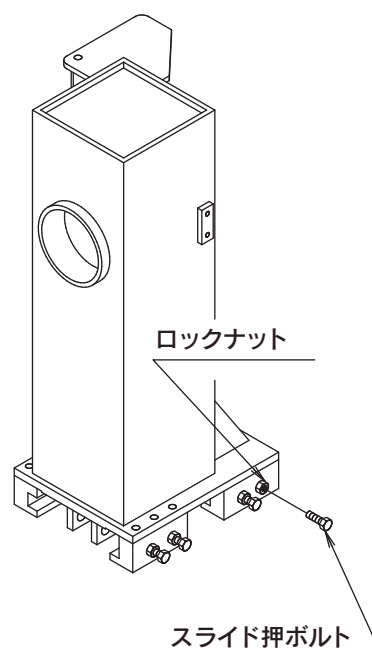
オイルの入れ過ぎに注意して下さい。油タンク油面計にある2本の線間に油面が来るようオイルを注入してください。油タンクは空の状態から約7リットル給油できます。

3. 移動台およびチャック台のスライド部に適時グリス塗布を行ってください。
また、機械各位置のグリスアップシールが示している箇所へグリスの注入、又は塗布を適時行ってください。

4. チャック台スライド部にガタ付きが出た場合はスライド押ボルト(8箇所)のロックナットを全て緩めて、チャック台がスライドレールの中央に来るようにスライド押ボルトを軽く締め込んでガタ付きを軽減してください。

押ボルト締め込み後はロックナットを締め込んでください。

※押ボルトを強く締め込みすぎるとチャック台が正常に前後できない場合があります。



点検期間	点検箇所	点検項目	点検要領
毎日	各ボルト・ナット	緩み	増し締め
	操作スイッチ	各部の動作	スムーズに動作するか
毎月	タイヤ回転チェーン	緩み	チェーン張り
	チャック台	ガタ付き	ガタ付きが出たら押ボルトで調整
毎年	油圧ユニット	作動油交換	タービン油(ISO.VG32～56)

8. 作動不良時の処置



注 意

異常が生じた時は、この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をした上で、それでも不具合の場合は、お買上の販売会社へご相談ください。

(1) タイヤが回転しない。

- サーマルリレーがはたらいていないか。

サーマル異常時には制御BOX上側の赤いランプが点灯します。

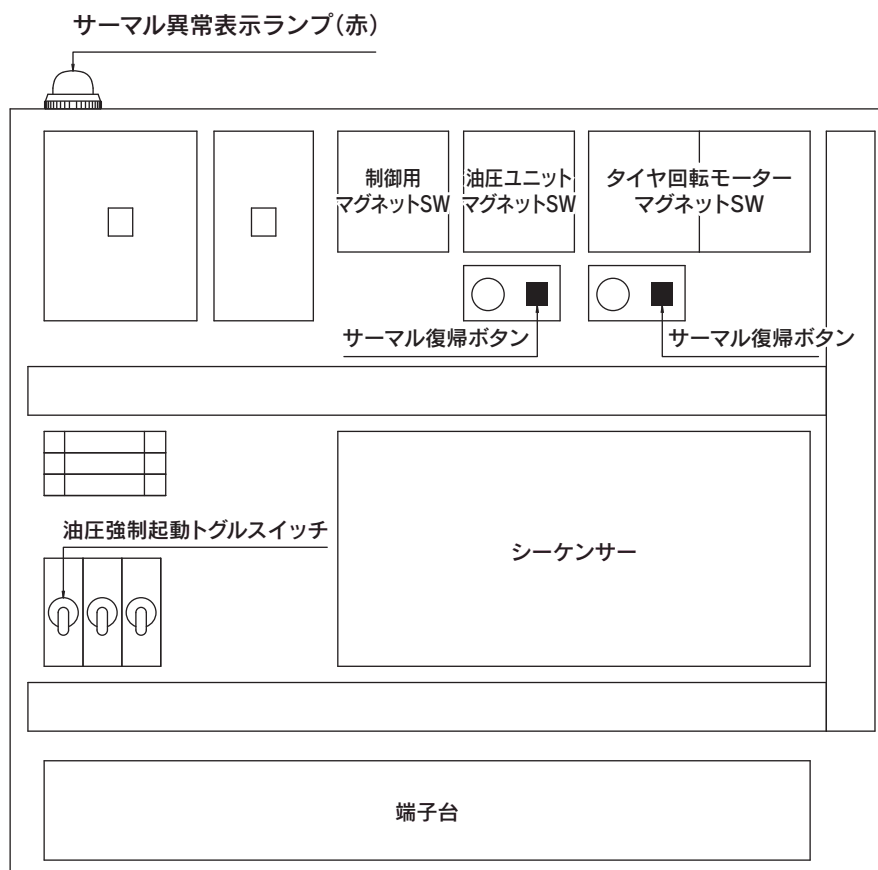
下図■印部のサーマルリレー復帰ボタンを押してください。サーマルリレーは作動してしばらくは復帰できません。2～3分待ってから押してください。

- インバーターが異常を検出していないか。

インバーターは電圧の降下等による異常を検出します。異常状態は機械の電源を断つて、しばらくしてから再投入することで解除されます。

- 単相運転になっていないか。

電源、電源コードに異常がないか調べる。



(2) 各々の油圧シリンダーが作動しない。

- ヒューズが切れていないか。



ヒューズの点検・交換。

この際、制御ボックス内に設置している「油圧強制起動」のトグルスイッチをONにして、油圧ユニットを作動させてから電磁弁両端の手動ピンを押込みながら、油圧ユニット下部のアンロードバルブ手動ピンを押せば、手動で油圧シリンダーを作動できます。

電磁弁とシリンダの関係は上から、

チャック開閉

チャック台前後

脱側ビードローラー伸縮

組側ビードローラー伸縮

リフト上下

ビードローラー移動台前後 の順になっています。



(3) すべての油圧シリンダーが作動しない。

- 電源が逆相になっていないか。



逆相に配線されるとポンプが油を汲み上げません。

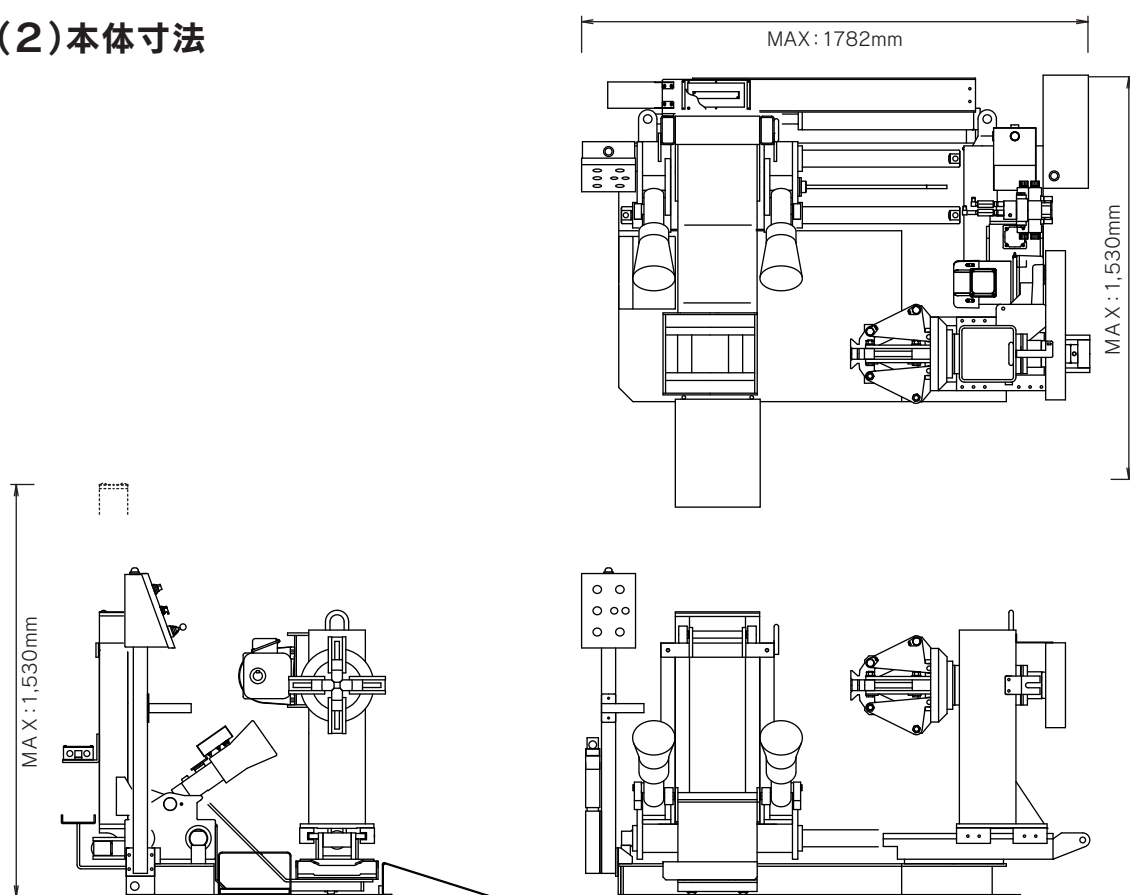
元電源を断った後、3本のうちいずれか2本を入れ替えてください。

9.仕様

(1)本体仕様

適 用 リ ム 径	16/17.5/19.5/22.5インチ
チャック可能ハブ穴径	φ110~480mm
適 用 タ イ ヤ 径	φ1,100mm
適 用 タ イ ヤ 幅	300mm
タイヤ回転スピード	6rpm
電 源	3相・200V 50/60Hz
油圧ポンプモーター	2.2kW 4P
タイヤ回転モーター	0.75kW 4P
ブレーカー容量	30A
本 体 重 量	約820kg

(2)本体寸法



標準付属品

1. 楽なバー 1 式
2. 六角レンチセット 1 式
3. タイヤクリーム 1 個
4. ビードヘルパー 1 個

オプション

1. タイヤ回転2スピード仕様

10. 製品保証規定

(1) 保証規定

取扱説明書、本体注意ラベル等の注意書きに従って正常な使用状態で保証期間内(納入後1年以内)に故障した場合は、弊社の責任に於いて無償にて欠陥部品の手直し、修理、取り替え、交換部品の送付をさせていただきます。

但し、二次的に発生する損失の補償及び、次の場合に該当する故障は保証致しません。

- ①使用上の誤り、保守点検、保管などの義務を怠ったために発生した故障及び損傷。
- ②商品の作動機構に悪影響を及ぼす変更(改造)を加え、それが原因で発生した故障及び損傷。
- ③消耗品が損傷し取り替えを要する場合。
- ④火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変等、外部に要因がある故障及び損傷。
- ⑤指定された純正部品をご使用されなかったことに起因する場合。
- ⑥日本国以外でご使用の場合。
- ⑦保証手続きが不備の場合。(例: 型式及び機体番号の連絡が無い場合。etc)
- ⑧設置に原因がある故障及び損傷。



注 意

このチェンジャーは屋外設置及び防水仕様になっておりませんので、錆、腐食、漏電等の水による故障は保証いたしていません。

(2) 保証請求方法

上記規定に基づき、本製品の保証請求を行う場合は、お買い上げの販売会社にご一報ください。必要な手続きを実施致します。

尚、保証の要否は大変勝手ながら弊社に於いて判断させていただきますのでご了承ください。

(3)アフターサービスについて

調子の悪いとき	この取扱説明書の8項目の故障と処置欄をご覧ください。
それでも調子の悪いときは	商品保証規定に従い修理をさせていただきますので、お買い上げ販売会社へ修理を依頼してください。
保証期間中の修理について	保証期間は納入後12ヶ月以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理させていただきます。
保証期間後の修理について	お買い上げ販売会社にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望によって有料修理致します。
アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買い上げ販売会社にお問い合わせください。	
お問い合わせいただく際は、次のことをお知らせください。 型式・機体番号・購入年月日・故障状況（できるだけ詳しく）。	

上記の事項を下表に記録しておく、お問い合わせの時便利です。

型 式	
機 体 番 号	
購 入 年 月 日	年 月 日
販 売 会 社	社名 担当者
	住所 電 話
設 置 業 者	社名 担当者
	住所 電 話
故 障 日・状 況	年 月 日
	年 月 日

(4)設置(据付)及び移設について

本製品の設置(据付)及び移設は、お買い上げの販売会社へ依頼してください。

移設の場合は、販売会社による点検を実施してください。

取扱説明書

品 名 **プロフィット**

型 式 **PF-295W 型**

初 版 発 行 月 日	令 和 2 年 1 月 6 日
-------------	------------------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 年 月 日
-------------	--------------------------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 年 月 日
-------------	--------------------------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 年 月 日
-------------	--------------------------------

編 集 兼 発 行 者	機 工 技 術 部
-------------	-----------------------

発 行	小 野 谷 機 工 株 式 会 社
--------------------------	-------------------

無断複写・掲載を禁ず。

ONODANI 小野谷機工株式会社

本社／福井県越前市家久町63-1 ☎(0778)22-2124(代)

営業所／札幌	☎(011)791-8588	名古屋	☎(052)354-1021
仙台	☎(022)255-7408	大阪	☎(06)6701-7315
秋田	☎(018)800-2556	福井	☎(0778)21-0335
東京	☎(03)5970-6011	広島	☎(082)943-8455
新潟	☎(025)281-8251	福岡	☎(092)582-6743

「販売会社又は施工業者の方へお願い」
この取扱説明書は、お客様に必ず渡してください。